

# 特別支援学校知的障害者用著作教科書 活用実践事例集 (国語、算数・数学、音楽)



# 目次

- はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.1
- 事例1 小学部5年 国語 ★★★ 東京都立墨田特別支援学校・・・・・・・・ p.2
- 事例2 中学部1年 国語 ★★★★★ 長崎県立鶴南特別支援学校・・・・・・・・ p.5
- 事例3 中学部3年 国語 ★★★★★ 高知県立山田特別支援学校・・・・・・・・ p.8
- 事例4 小学部3・4年 算数★★ 山形大学附属特別支援学校・・・・・・・・ p.11
- 事例5 中学部2年 算数 ★★★ 東京都立墨田特別支援学校・・・・・・・・ p.14
- 事例6 小学部5年 算数 ★★★ 沖縄県立名護特別支援学校・・・・・・・・ p.17
- 事例7 中学部1年 数学 ★★★★★ 東京都立あきる野学園・・・・・・・・ p.20
- 事例8 中学部2年 数学 ★★★★★ 名古屋市立南特別支援学校・・・・・・・・ p.23
- 事例9 小学部1～3年 音楽 ★/★★/★★★ 東京都立小平特別支援学校・・ p.26
- 事例10 小学部3・4年 音楽 ★★/★★★ 筑波大学附属大塚特別支援学校・・ p.29
- 事例11 中学部3年 音楽 ★★★★★ 富山県立にいかわ総合支援学校・・・・ p.32

# はじめに

文部科学省では、知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の小学部及び中学部用著作教科書（以下「星（☆）本」という。）を発行しています。

星（☆）本は、学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場で応用されにくいという知的障害のある児童生徒の学習上の特性を踏まえて編集しています。学んだことが次の学びや学校生活、日常生活及び将来の人生に生きる内容となるように、児童生徒が学習する上で役立ち、可能な範囲で学校生活や日常生活の課題や流れと関連のある題材・テーマを取り上げています。

また、今次の特別支援学校学習指導要領において、知的障害者である児童生徒のための各教科等の目標や内容が、育成を目指す3つの資質・能力の柱に基づいて整理されていることを踏まえ、星（☆）本では、生きて働く知識・技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養につながる題材を選定し、特別支援学校学習指導要領で示す教科の内容を一通り学習することができるようにしています。

文部科学省としては、知的障害のある児童生徒の資質・能力の育成に当たって、特別支援学校等において星（☆）本を積極的に御活用いただきたいと考えていますが、一方で、現場の先生方からは、「星（☆）本を手にとったことがない。」「どのように星（☆）本を使えばよいか分からない。」といった声も聞かれるところです。

そこで、特別支援学校等における実践の参考となるよう、星（☆）本を実際に授業で活用されている特別支援学校に御協力いただき、本事例集を作成しました。

星（☆）本を授業内で児童生徒に提示し、その題材や星（☆）本で示している発問等を適宜使用しながら展開する授業や、星（☆）本自体を直接児童生徒に提示はしないが、星（☆）本の題材を取り入れて展開する授業など、児童生徒一人一人の実態や各教科の段階・特質等を踏まえて、星（☆）本を様々な活用した創意工夫あふれる実践が各校においてなされております。

また、その際には、星（☆）本の題材の活用の仕方や、各題材における指導のねらいや重点、そしてどのような資質・能力を育成するのかということ等を確認するため、星（☆）本の教科書解説（以下「解説書」という。）を併せて活用されていることも見てとれます。

なお、本事例集で示している実践事例が全ての児童生徒に当てはまるわけではなく、児童生徒一人一人の実態、各教科の段階・特質や解説書で示す内容等を踏まえた授業づくりが大切であることは論をまちません。

また、今回の事例集では、国語、算数・数学、音楽の星（☆）本を活用した実践事例を紹介しておりますが、令和6年度からは生活、令和7年度からは社会、理科、職業・家庭の星（☆）本が新たに発行されていることを踏まえ、今後これらの星（☆）本を活用した実践の広がりにも期待しています。

結びに、本事例集の作成に当たって御協力いただいた特別支援学校の皆様にはこの場をお借りして厚く御礼を申し上げますとともに、特別支援学校等における星（☆）本を活用した授業づくりにおいて、本事例集がその一助となることを願っています。

# 東京都立墨田特別支援学校

## 障害種・児童生徒数

知的障害部門:小学部 157人(32学級) 中学部 80人(17学級) 高等部 120人(18学級)

## 学校の特徴

墨田区・台東区を主な通学区域として地域連携をはかりつつ、「生きる力・働く力」を育てる学校として46年の歴史を重ねてきた知的障害特別支援学校。

### 小学部

学年	国語	算数	音楽
第1学年	☆		☆
第2学年			
第3学年	☆☆	☆☆(1)	☆☆
第4学年	☆☆ (R5の実績)	☆、☆☆(2) (R5の実績)	
第5学年	☆☆、☆☆☆	☆、☆☆(1)	
第6学年		☆、☆☆(2)、 ☆☆☆	

### 星(☆)本を活用している

#### 学年・教科等



### 中学部

学年	国語	数学(算数)	音楽
第1学年			☆☆☆☆
第2学年	☆☆☆	☆☆、☆☆☆、 ☆☆☆☆	☆☆☆☆
第3学年		☆☆☆	☆☆☆☆

※授業の一部でも星(☆)本を活用している学年・教科に”☆”を示しており、全ての授業で星(☆)本を活用していることを示すものではない。

### 学校としての星(☆)本の主な使い方

- 解説書を参考にして、学習指導要領の目標や内容、児童生徒の実態等を踏まえて、星(☆)本の題材を授業に取り入れている。



### 星(☆)本活用に関する工夫

- 星(☆)本のイラストや図を基にして、プレゼンテーションソフトでデジタル教材を自作し、校内で共有・活用している。

### 星(☆)本を活用することによる効果

- 星(☆)本を活用することで教員が各教科の内容の体系を理解することができ、計画的・系統的に授業づくりを考えることができるようになっている。
- 共通の教科書があることで、教員同士で進捗状況を共有したり、教員が代わっても、これまでの指導内容や指導方法を共有したりしやすくなっている。
- 解説書があることで、学習指導要領の目標や内容を踏まえた指導の系統性が分かりやすくなっている。



## 活用事例 ①

学年 … 小学部5年

教科 … 国語

使用している星(☆)本



★★★★

# デジタル化した星(☆)本の題材を活用し、気持ちをこめたセリフを引き出す

## 本題材に関連する 学習指導要領の 主な内容

3段階

【知識及び技能】

ア 言葉の特徴や使い方

(イ) 姿勢や口形に気を付けて話すこと。

【思考力、判断力、表現力等】

A 聞くこと・話すこと

オ 相手に伝わるよう、発音や声の大きさに気を付けること。

C 読むこと

エ 登場人物になったつもりで、音読したり演じたりすること。

## 単元名

セリフをいってみよう

## 児童生徒の 状況

- 文字の読みに困難がある児童や、集中が途切れがちな児童などがいる。発語はあるが、相手に伝わるように話をするのが課題である。

## 単元構想の視点と 星(☆)本活用の ポイント

- 文字の読みに困難がある児童や集中が途切れがちな児童であっても、興味を持続させ、登場人物の行動や場面の様子を想像できるように、同じような場面が繰り返されて動きのある題材を星(☆)本から選択している。

## 単元の展開

- 登場人物の気持ちが分かりセリフを言う。
- 絵を見て、動きを表す言葉や様子を表す言葉を使って詳しく話す。

## 時数

## 学習活動と星(☆)本の活用

## 関連して使用した教材等

①

②

- 「三びきのこぶた」(☆☆☆)を教員が音読し物語の大体の内容を捉える。
- 大型テレビの画面に注目しながら一緒にセリフを読む。



(1) 学習の導入として発声する  
①なまえなあんだ(☆☆)の「あいうえお」口形を意識して発声する。

②こえを出そう(☆☆☆)  
背中を伸ばして立って発声する。

③

④

⑤

⑥

⑦

- 役割を決めて一人ずつセリフを言いながらお話を読み進める。



(2) 役割のペープサートをもたせる

⑧(本時)

⑨

⑩

- 気持ちを込めてセリフを言う。どんな気持ちか想像してみる。
- 役を替えていろいろな登場人物に取り組む。

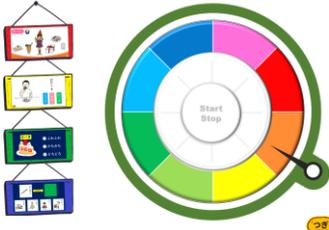
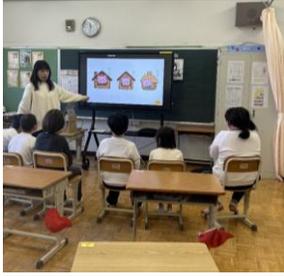
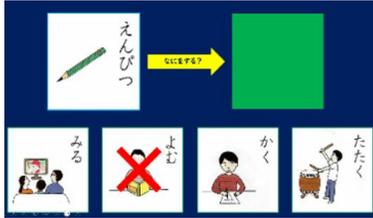


「きもちをあらわすことば」(自作教材)  
表情のイラストからどんな気持ちを表しているか読み取る。『きもちツリー』を作って少しずつ気持ちを表す言葉を増やしていく。

# 本時の展開

目標:登場人物の気持ちを理解してセリフを言い、動きや様子を表す言葉を使って話す



学習の流れ	主な学習活動	星(☆)本の使い方のポイント
<p><b>導入</b></p>	<p>○声を出す活動 ○挨拶・「あいうえお」発声 ○本時の学習内容確認</p> 	<p>・平仮名が読めない児童も興味を持続させ、セリフを覚えて気持ちが込められるように、星(☆)本の題材を活用して、プレゼンテーションソフトでこぶたのイラストを使った、動きのあるデジタル教材を作成・活用している。</p>
<p><b>展開</b></p>	<p>展開① セリフをいってみよう 「三びきの子ぶた(☆☆☆)」 ・イラストを見て登場人物や場面を捉え、気持ちを込めてセリフを言う。 ・メインの学習のあとの振り返り学習では、ルーレットを使って順番に児童に割り当てテンポ良く進める。</p>    <p>展開② 個別学習 1人1台端末で課題に取り組む</p>	<p>(※児童の学習意欲や興味関心の高まりのため、星(☆)本の題材を踏まえつつ、はっきりした色合いに変更したイラストを作成・活用。)</p> <p>・児童が主体的に取り組めるよう、各自の端末で操作をするときは音声を取り入れ、タッチすると反応する教材を、星(☆)の題材を生かしながら作成し、授業で活用している。</p> <p>・星(☆)本に掲載されているイラストや具体物を実際に準備して、体験活動しながら学びが深められるようにしている。</p> <p>・星(☆)本の教科書解説の言語事項に掲載されている言葉から派生して、同じ意味の言葉や同じ仲間の言葉をその都度出し合い言葉の幅を広めている。</p>
<p><b>まとめ</b></p>	<p>振り返りクイズ 挨拶</p> 	<p>・星(☆)本に掲載されたイラストを使って、最後に振り返りクイズを行うことで児童の興味・関心を引き出している。</p>

## 担当教員より

- 星(☆)本を活用することによって、段階に応じて系統立てて授業に取り組んでいくことができ、児童の基本的な言葉の習得につなげることができる。
- 星(☆)本の題材は、文字とイラストが対にされているため、児童の言葉の習得に効果的である。
- 取り上げられている題材が実生活の体験に即しており、児童の実生活に般化しやすく、写真を見て想起するなど深い学びにつなげることができる。



# 長崎県立鶴南特別支援学校

## 障害種・児童生徒数

小学部50人(12学級)、中学部61人(12学級)、高等部57人(9学級)

## 学校の特徴

県南部地域の特別支援学校の中心的役割として機能。広大な地域で恵まれた教育環境を生かし、児童生徒の生きる力を育てている。

### 小学部

学年	国語	算数	音楽
第1学年	☆	☆	☆
第2学年	☆	☆	
第3学年	☆☆	☆☆	☆☆
第4学年	☆☆、☆☆☆	☆☆、☆☆☆	☆☆
第5学年	☆☆、☆☆☆	☆☆、☆☆☆	☆☆☆
第6学年	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆

## 星(☆)本を活用している

### 学年・教科等



### 中学部

学年	国語	算数	音楽
第1学年	☆☆☆、☆☆☆☆	☆☆☆、☆☆☆☆	☆☆☆☆
第2学年	☆☆☆、☆☆☆☆、☆☆☆☆☆	☆☆☆、☆☆☆☆、☆☆☆☆☆	☆☆☆☆、☆☆☆☆☆
第3学年	☆☆、☆☆☆、☆☆☆☆、☆☆☆☆☆	☆☆☆、☆☆☆☆、☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆

※授業の一部でも星(☆)本を活用している学年・教科に”☆”を示しており、全ての授業で星(☆)本を活用していることを示すものではない。

## 学校としての星(☆)本の主な使い方

- 解説書を踏まえて、年間指導計画を作成し、星(☆)本のある教科については基本的に星(☆)本を中心に学習を行っている。



## 星(☆)本活用に関する工夫

- 星(☆)本の題材を扱った授業づくりがしやすくなるよう、各学年に1冊ずつ解説書を用意している。
- 過年度の指導計画や授業の進め方に関する資料をデータで蓄積し、これまでに星(☆)本を扱ったことがない教員でも、星(☆)本を使用した授業づくりの参考にできるようにしている。

## 星(☆)本を活用することによる効果

- 解説書に押さえるべき観点が書いてあるため、授業の中でねらいが明らかになり、学習評価に生きている。
- 星(☆)本は、知的障害の特性等を踏まえて題材が分かりやすく整理されているため、これまでの授業と比較して、児童生徒が学習内容をより理解できるようになっている。



活用事例 ②

学年 … 中学部1年

教科 … 国語

使用している星(☆)本



星(☆)本の題材の具体物を活用して文章の作り方を学ぶ

本題材に関連する  
学習指導要領の  
主な内容

- I 段階  
【知識及び技能】  
ア 言葉の特徴や使い方  
(ウ) 長音、拗音、促音、撥音、助詞の正しい読み方や書き方を知ること。  
【思考力、判断力、表現力等】  
C 読むこと  
イ 語や語句の意味を基に時間的な順序や事柄の順序など内容の大体を捉えること。

単元名

作ってみよう

児童生徒の  
状況

- ・ 小学校低学年程度の漢字や短い文章の読み書きはできるが、物語や説明文の要点を捉えることは苦手な生徒が多い。
- ・ 集中して学習に取り組むことに課題がある生徒もいる。

単元構想の視点と  
星(☆)本活用の  
ポイント

- ・ どのような様子・場面なのかを生徒が連想しやすいよう、星(☆)本から生活に身近な題材を取り上げることで、文章の作り方を理解できるようにする。

単元の展開

- ・ スイートポテト作りの説明文を読んで、作り方(順序や方法)を正しく捉える。
- ・ スイートポテト作りの説明文にある長音、拗音、促音、撥音、助詞を正しく書きとる。

時数

学習活動と星(☆)本の活用

関連して使用した教材等

- ① ○作ってみよう ①ペットボトルのかざぐるま・本文を読む・絵に合うように文を並べる・絵と文が合うと思った理由を話させる・分からない語句を調べる・長音、拗音、促音、撥音を聞いて、  
② 書く・黒板に提示された本文の空欄に適切な助詞を入れる ☆

- ・ ラミネートした本文とイラスト
- ・ 付箋紙

④(本時)

- 作ってみよう ②レンジで簡単スイートポテト・本文を読む・絵に合うように文を並べる・絵と文が合うと思った理由を話させる・分からない語句を調べる・長音、拗音、促音、撥音を聞いて、  
③ 書く・黒板に提示された本文の空欄に適切な助詞を入れる ☆

- ・ 拡大コピーした星(☆)本・ワークシート
- ・ 1cm角の消しゴム・耐熱容器・ラップ

- ④ ○図書室で工作の本を借り、作りたい作品を作る・材料や道具など必要な物を書き出す・文を基に実際に制作する・感想を書く・感想を述べる・次回、何を作りたいか発表する

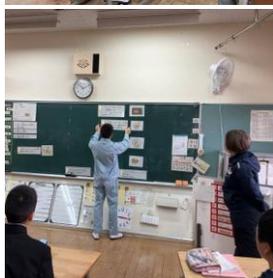
- ・ 工作の本(2冊) ・ 紙皿 ・マジック
- ・ セロテープ ・ ひも ・ はさみ

## 本時の展開

目標: 説明文を読んで順序や方法を捉え、  
長音・拗音・促音・撥音・助詞を正しく書き取る



学習の流れ	主な学習活動	星(☆)本の使い方のポイント
導入	1. 本時の学習内容を知る ○前時までを振り返る ○本時の目標を知る ・絵に合うように文を並べる ・長音、拗音、促音、撥音を聞いて、書く ・助詞を正しく読む、書く	
展開	2. 絵に合うように文を並べる 「作ってみよう(☆☆☆☆)」 ・絵と文が合うと思った理由を生徒が話し、合っているどうか生徒自身で確認する。 3. 長音、拗音、促音、撥音を聞いて、書く (「ぎゅうにゅう」、「ほっとけーき」など) ・生徒が自分でワークシートに記入した後、再度教師が読み、自分で誤字に気が付けるように促す。 4. 助詞を読む、書き入れる ・本文を黒板に提示し、空欄に適切な助詞を入れるよう促す。	・星(☆)本を印刷したワークシートのほか、拡大コピーしたイラストと本文を黒板に貼り付けて授業を進める。 ・星(☆)本の題材として出てくる1cm角に切ったさつまいもに代わるものとして、1cm角に切った消しゴムを用意するとともに、耐熱容器やラップについては実物を用意して、生徒に具体物を触らせることで、場面を連想できるようにする。
まとめ	5. まとめをする ○本時の学習を振り返る	



## 担当教員より

- 解説書に指導例や展開例が示されているため、参考にできる指標があり、指導がしやすくなった。
- 担当する学年や教科が変わっても、ベースとなる教科書と解説書があることで、一定の授業レベルと学習環境を整えることができる。



# 高知県立山田特別支援学校

## 障害種・児童生徒数

小学部:31人(10学級) 中学部:34人(8学級) 高等部:68人(14学級)

## 学校の特徴

県内最大規模であり、東部で唯一の特別支援学校。学校教育目標に「自ら学び、自らチャレンジ」「挨拶、返事、思いやり」「心も体もたくましく」を掲げ、主体的に生きる社会人の育成を目指している。

### 小学部

学年	国語	算数	音楽
第1学年	☆	☆	☆、☆☆
第2学年	☆☆	☆☆	☆、☆☆
第3学年	☆☆		☆、☆☆
第4学年	☆☆	☆、☆☆、☆☆☆	☆☆、☆☆☆
第5学年	☆☆	☆、☆☆、☆☆☆	☆☆、☆☆☆
第6学年	☆☆、☆☆☆	☆☆、☆☆☆	☆☆、☆☆☆

### 星(☆)本を活用している

#### 学年・教科等



### 中学部

学年	国語	算数	音楽
第1学年	☆~☆☆☆☆☆	☆、☆☆、☆☆☆、☆☆☆☆	
第2学年	☆~☆☆☆☆☆	☆、☆☆☆、☆☆☆☆	☆☆~☆☆☆☆
第3学年	☆☆~☆☆☆☆☆	☆☆☆、☆☆☆☆	☆☆~☆☆☆☆

※授業の一部でも星(☆)本を活用している学年・教科に”☆”を示しており、全ての授業で星(☆)本を活用していることを示すものではない。

### 学校としての星(☆)本の主な使い方

- 学習指導要領との関連から活用を進めており、児童生徒の実態や学習内容に応じて、星(☆)本の題材を授業に取り入れている。



### 星(☆)本活用に関する工夫

- 星(☆)本に出てくる言葉を端末で調べるなど、星(☆)本と併せて1人1台端末を活用し、学習の充実につなげている。
- 星(☆)本の題材と関連させた教材(ワークシート等)を教員が作成し、授業で活用している。

### 星(☆)本を活用することによる効果

- 星(☆)本と解説書を活用することで、教科の系統性を意識した授業づくりがしやすくなってきている。
- 星(☆)本の活用により、授業におけるねらいが明確化され、児童生徒の授業の理解度を教員が掴みやすくなっている。



活用事例 ③

学年 … 中学部3年

教科 … 国語

使用している星(☆)本



星(☆)本の題材の朗読や語句調べを通して作品に対する考えをもつ

本題材に関連する  
学習指導要領の  
主な内容

2段階

【知識及び技能】

ア 言葉の特徴や使い方

(ア) 日常生活の中での周りの人とのやり取りを通して、言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。

【思考力、判断力、表現力等】

Ｃ 読むこと

ア 様々な読み物を読み、情景や場面の様子、登場人物の心情などを想像すること。

イ 語と語や文と文との関係を基に、出来事の順序や気持ちの変化など内容の大体を捉えること。

オ 読んで感じたことや分かったことを伝え合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。

単元名

ぼくのカレーライス

児童生徒の  
状況

- ・ 中学部2年時まで、中学部1段階の国語の内容の学習を終えている。
- ・ 生活経験が少なく、語彙力に課題がある。

単元構想の視点と  
星(☆)本活用の  
ポイント

- ・ 題材の感じ方を伝え合うことができるよう、登場人物の心情や出来事の順序を捉えやすい題材を星(☆)本から取り上げる。

単元の展開

- ・ 「ぼくのカレーライス」を読んで感じたことやわかったことを伝え合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気づく。

時数

学習活動と星(☆)本の活用

関連して使用した教材等

① (本時)

「ぼくのカレーライス」を読んだ感想を伝えよう



②

「ぼくのカレーライス」の場面ごとの登場人物の気持ちを伝えよう



③

「ぼくのカレーライス」を学習して感じたことを伝え合おう



④

いろいろな物語を読んでみよう



ドリル 文章読解小学3年  
※生徒が個人で購入している教材等

## 本時の展開

目標:朗読や語句調べを通して、  
作品に対する考えをもつ

学習の  
流れ

## 主な学習活動

## 星(☆)本の使い方のポイント

## 導入

1. はじめのあいさつをする。
2. 本時の内容とめあてを確認する。

## 展開

- 「ぼくのカレーライス」(☆☆☆☆☆)
3. 「ぼくのカレーライス」を読む。
    - ① 教師の朗読を聞く。
    - ② 教師と一緒に読む。
    - ③ 一人で、最後まで読む。
  4. 分からない語句を調べる。
    - ・ 端末で知らない語句を調べ、意味をワークシートに記入する。
  5. 初めて「僕のカレーライス」を読んだ感想を書く。
    - ・ ワークシートに初めて「ぼくのカレーライス」を読んだ感想を書く。



- ・ 生徒の日常生活に身近な内容である本題材を朗読することで、語彙力を高めるとともに、登場人物の心情理解につなげている。
- ・ 一人一人の語彙の習熟度が異なるため、教師と一緒に朗読は一対一で行う。
- ・ 星(☆)本の題材に関して、調べた単語の意味や題材を読んだ感想を書くためのワークシートを作成し、活用している。

## まとめ

7. 感想を伝え合う。
  - ・ ワークシートに記入した感想を相手に伝える。
8. まとめ・振り返りをする。
  - ・ ワークシートに振り返りを記入する。
9. おわりのあいさつをする。

## 担当教員より

- 本時の「ぼくのカレーライス」のように、星(☆)本の題材は生徒の生活に身近な内容が取り扱われているため、中心的な単語を押さえたり、分からない語句を調べたりすることで、内容を捉えやすい。また、生徒が思考を働かせやすく、文章を書く時の参考にもなっている。

# 山形大学附属特別支援学校

障害種・児童生徒数

小学部:15名(3学級)、中学部:15名(3学級)

学校の特徴

昭和49年の開校以来、長きに渡り県央地域における知的障害教育の先導校として、知的障害教育の充実を図ってきた。山形市内のほか、上山市、天童市、山辺町など複数の市町から児童生徒が集まる。

## 小学部

学年	国語	算数	音楽
第1学年	☆	☆	☆
第2学年	☆	☆	☆
第3学年	☆☆	☆☆	☆☆
第4学年	☆☆	☆☆	☆☆
第5学年	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆
第6学年	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆

星(☆)本を活用している

学年・教科等



## 中学部

学年	国語	算数	音楽
第1学年	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆
第2学年	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆
第3学年	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆、 ☆☆☆☆☆

※授業の一部でも星(☆)本を活用している学年・教科に”☆”を示しており、全ての授業で星(☆)本を活用していることを示すものではない。

## 学校としての星(☆)本の主な使い方

- 星(☆)本のある教科については、児童生徒の実態等に応じて、一般図書と併用しながら活用している。



## 星(☆)本活用に関する工夫

- 星(☆)本と解説書を職員室に用意し、教員がいつでも参照できるようにしている。
- 地域の小学校からの編入学者もいること等から、星(☆)本の理解にもつながるよう、小学校の特別支援学級の教員が多く参加する教育研究会において、星(☆)本を活用した授業実践の発表を行っている。

## 星(☆)本を活用することによる効果

- 星(☆)本を活用することで、教員が指導の流れを掴みやすくなり、児童生徒の実態等に合った授業づくりにつながっている。
- 教員が各教科の本質や、教科の目標を意識しながら指導できるようになっている。



活用事例 ④

学年 …… 小学部3・4年

教科 …… 算数

使用している星(☆)本



★★

星(☆)本の題材の具体物を活用して数を「分ける」「まとめる」考え方を学ぶ

本題材に関連する学習指導要領の主な内容

2段階

A数と計算 ア

(ア)知識及び技能

- ㉞一つの数を二つの数に分けたり、二つの数を一つの数にまとめたりして表すこと。
- ㉟具体的な事物を加えたり、減らしたりしながら、集合数を一つの数と他の数と関係付けてみること。

㊦10の補数が分かること。

(イ)思考力、判断力、表現力等

- ㊧数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすこと。

単元名

いくつといくつ

児童生徒の状況

- ・今年度は小学部2段階の内容をもとに学習を進めており、10までの数について、ものの個数を数えたり、数の大小を比べたりすることができる状況。

単元構想の視点と星(☆)本活用のポイント

- ・10までの数について、「分ける」「まとめる」という考え方の理解につながるよう、解説書の学習指導例を参考に、ブロックやカードといった具体物を用いる。

単元の展開

- ・10までの数について、一つの数を二つの数に分けたり、二つの数を一つにまとめたりして表す。
- ・10までの数について、一つの数を基にもう一方の数を考える。

時数	学習活動と星(☆)本の活用	関連して使用した教材等
①	めあて「かずをわけよう、まとめよう」 1. 3はいくつといくつ 2. 4はいくつといくつ 3. ふりかえり	★
②～⑦	めあて「かずをわけよう、まとめよう」 1. ○はいくつといくつ 2. ボールはいくつ 3. ふりかえり	★
⑧		
⑨本時	めあて「かずをわけよう、まとめよう」 1. いくつといくつ(復習) 2. ボールはいくつ 3. ○はいくつといくつ 4. ふりかえり	★
⑩		
⑪		
⑫		

- ・ブロック
- ・ボール
- ・星(☆)本の内容をスキャンして印刷したもの(数の合成・分解の手掛かり図、ブロックの絵カード)
- ・分け方クイズ(学習プリント)

## 本時の展開

目標:数を「分ける」「まとめる」考え方と言葉を結び付けて理解できる



学習の流れ	主な学習活動	星(☆)本の使い方のポイント
<p><b>導入</b></p>	<p>1 かずあてゲーム            ・ボードに貼られたブロックを見て、ブロックの数を答える。            ・二つのボードに貼られたブロックを見て、どちらのブロックが多いか答える。</p> <p>2 はじめのあいさつ</p> <p>3 本時のめあてと活動内容の確認</p>	<p>星(☆)本の使い方のポイント</p>
<p><b>展開</b></p>	<p>「いくつといくつ(☆☆)」</p> <p>4 いくつといくつ            ・3から10まで、数の分け方をブロックを分けながら確認する。</p> <p>5 ボールはいくつ            ・ボールが二つの部屋に分かれる様子を見て片方のボールの数から隠れたもう片方のボールの数を考え、答える</p> <p>6 ○はいくつといくつ            ・教師が提示した元の数の数字カードと、分けた時の片方の数の数字カードを見て、合わせて元の数になるように、数字カードを選ぶ。</p>	<p>・数を「分ける」「まとめる」ということを児童がイメージできるように、解説書の学習指導例を参考にして、ブロックやカードといった具体物の操作を取り入れている。</p> <p>・児童の手元にある星(☆)本と同じイラストで説明できるように、星(☆)本の内容(イラスト)を拡大印刷したものをホワイトボードに貼っている。</p>
<p><b>まとめ</b></p>	<p>7 ふりかえり            ・教材や板書を見て、めあてを達成できたか振り返る。</p>	



 担当教員より

- 星(☆)本はイラストが多く、児童にとって分かりやすい内容となっている。
- 星(☆)本という共通の教科書があることで、星(☆)本を活用した授業づくりや指導方針等を教員同士で話し合うことができ、活用意識が高まるだけでなく、コミュニケーションのきっかけにもなっている。



障害種・児童生徒数

知的障害部門:小学部 157人(32学級) 中学部 80人(17学級) 高等部 120人(18学級)

学校の特徴

墨田区・台東区を主な通学区域として地域連携をはかりつつ、「生きる力・働く力」を育てる学校として46年の歴史を重ねてきた知的障害特別支援学校。

## 小学部

学年	国語	算数	音楽
第1学年	☆		☆
第2学年			
第3学年	☆☆	☆☆(1)	☆☆
第4学年	☆☆ (R5の実績)	☆、☆☆(2) (R5の実績)	
第5学年	☆☆、☆☆☆	☆、☆☆(1)	
第6学年		☆、☆☆(2)、 ☆☆☆	

## 星(☆)本を活用している

### 学年・教科等



## 中学部

学年	国語	数学(算数)	音楽
第1学年			☆☆☆☆
第2学年	☆☆☆	☆☆、☆☆☆、 ☆☆☆☆	☆☆☆☆
第3学年		☆☆☆	☆☆☆☆

※授業の一部でも星(☆)本を活用している学年・教科に”☆”を示しており、全ての授業で星(☆)本を活用していることを示すものではない。

## 学校としての星(☆)本の主な使い方

- 解説書を参考にして、学習指導要領の目標や内容、児童生徒の実態等を踏まえて、星(☆)本の題材を授業に取り入れている。



## 星(☆)本活用に関する工夫

- 星(☆)本のイラストや図を基にして、プレゼンテーションソフトでデジタル教材を自作し、校内で共有・活用している。

## 星(☆)本を活用することによる効果

- 星(☆)本を活用することで教員が各教科の内容の体系を理解することができ、計画的・系統的に授業づくりを考えることができるようになっている。
- 共通の教科書があることで、教員同士で進捗状況を共有したり、教員が代わっても、これまでの指導内容や指導方法を共有したりしやすくなっている。
- 解説書があることで、学習指導要領の目標や内容を踏まえた指導の系統性が分かりやすくなっている。



## 活用事例 ⑤

学年 … 中学部2年

教科 … 算数・数学

使用している星(☆)本



★★★★

## デジタル化した星(☆)本の題材を活用し、視覚的に時計の理解を深める

本題材に関連する  
学習指導要領の  
主な内容

【算数】3段階

C測定 イ

(ア) 知識及び技能

⑦ 日常生活の中で時刻を読むこと。

① 時間の単位(日、午前、午後、時、分)

について知り、それらの関係を理解すること。

(イ) 思考力、判断力、表現力等

⑦ 時刻の読み方を日常生活に生かして、

時刻と生活とを結び付けて表現すること。

## 単元名

時計

児童生徒の  
状況

- ・ 時計を意識して生活する習慣がなく、時刻を読んだこともないため、初めて時計に関する学習に挑戦した。
- ・ 時刻の読み方(～時～分)に親しみをもつところからスタートして、全員が10分単位で時刻を読むことができるようになった。

単元構想の視点と  
星(☆)本活用の  
ポイント

- ・ ねらいが明確化されている星(☆)本の題材について、題材をデジタル化することで、生徒がそのねらいを意識しながら活動し、学んだことを定着させることができるようにしている。

## 単元の展開

- ・ 示された長針と短針の位置から時刻を答える。
- ・ 示された時刻から長針と短針の位置を判断する。

## 時数

## 学習活動と星(☆)本の活用

## 関連して使用した教材等

①

- ☆☆☆ (P80～P81)
- ・ 「～時」、「～時～分」の読み方に親しむ。
- ・ 長針と短針の動き方



②

- ☆☆☆ (P82～P83)
- ・ 時刻の読み方(長針のみ)



③

- ☆☆☆ (P84)
- ・ 時刻の読み方(短針のみ)



④

⑤

- ☆☆☆ (P85)
- ・ 時刻の読み方(長針と短針の両方)
- ・ 針を合わせる練習



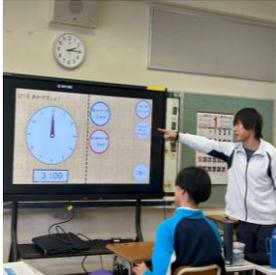
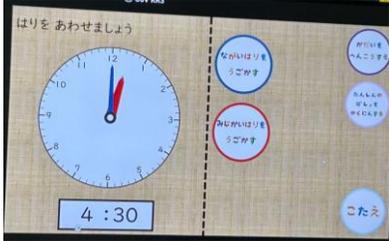
⑥(本時)

- (1) 自作した☆本のICT教材を大型TVで示す。
- (2) 全員で確認した後、  
A: ワークシートで確認  
B: タブレット端末で確認  
上記を繰り返す。
- (3) まとめとして、教室の時計を見て確認する。

## 本時の展開

目標:「時計」の理解を深め学びを定着させる



学習の流れ	主な学習活動	星(☆)本の使い方のポイント
導入	挨拶 ・黙想して授業に集中する環境を整える。	
展開	<p>「時計(☆☆☆)」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>時刻の見方、針の合わせ方 ICT教材を使って示された長針と短針の位置から時刻の読み方を確認する。</li> <li>ワークシートを使って定着を図る。</li> <li>示された時刻から長針と短針の位置を合わせる課題では、タブレット端末を使って針を合わせる課題に取り組み、定着を図る。</li> <li>ワークシートは答えを覚えてしまうことがないよう、数パターンを用意。</li> </ul>    <p>★針に強調のアニメーションを付けて着目すべきところをわかりやすくしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>星(☆)本の内容を1ページずつデジタル化し、視覚的にわかりやすい教材を作成している。</li> <li>星(☆)本に示された長針と短針の位置から時刻を答える課題では、説明時にどちらの針を見るのか、着目すべき数字はどれかを分かりやすくするため、針に強調のアニメーションをつけ、数字の列には色をつけている。</li> <li>示された時刻から針を合わせる課題では、タブレット端末を使い、長針と短針を合わせられるようにしている。</li> <li>星(☆)本の題材をデジタル化して系統性をもって授業を行うことで、本時で達成すべきねらいや目標を定め、生徒に着実に力が身に付くようにしている。</li> </ul>
まとめ	本時の内容の確認、挨拶 ・本時の内容を確認し、評価をする。	

## 担当教員より

- 星(☆)本は指導のロードマップ的に活用することができる。各授業におけるねらいをどこに置くのか、どこまでの内容を扱うこととするのかを意識した授業づくりができる。
- 星(☆)本の活用により系統性をもった指導を行うことができるようになり、算数・数学の内容の定着がこれまでよりも図られるようになった。



## 障害種・児童生徒数

小学部:50名(13学級) 中学部:40名(11学級) 高等部:58名(11学級)

## 学校の特徴

沖縄県北部に位置する県内では中規模の特別支援学校。海と森に囲まれた自然豊かな環境で学びを育む。児童生徒が社会生活等で生かすことのできる資質・能力の育成を目指している。

### 小学部

学年	国語	算数	音楽
第1学年	☆	☆	☆
第2学年	☆	☆	☆
第3学年	☆☆	☆☆	☆☆
第4学年	☆☆	☆☆	☆☆
第5学年	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆
第6学年	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆

## 星(☆)本を活用している

### 学年・教科等



### 中学部

学年	国語	算数	音楽
第1学年	子どもの実態に合わせて、★本の内容を参考に授業で活用している。		
第2学年			
第3学年			

※授業の一部でも星(☆)本を活用している学年・教科に”☆”を示しており、全ての授業で星(☆)本を活用していることを示すものではない。  
 ※小学部の☆の数は基本としており、児童の実態に応じて変わることもある(例:2年生は「☆」ではあるが、「☆☆」を使う児童もいる)。

## 学校としての星(☆)本の主な使い方

- 星(☆)本のある全ての教科で星(☆)本を導入し、児童生徒の実態等に応じて、一般図書と併用しながら、星(☆)本の題材を授業に取り入れている。



## 星(☆)本活用に関する工夫

- 学習指導案や授業計画の中において、星(☆)本の活用についても示し、他の教員も参照することができるようにしている。

## 星(☆)本を活用することによる効果

- 指導内容の系統性を意識することができるようになり、授業の組み立てがしやすくなっている。
- 解説書を参考にしながら、教員同士で内容の解釈について相談し合い、授業づくりに取り組んでいる。



活用事例 ⑥

学年 … 小学部5年

教科 … 算数

使用している星(☆)本



★★★★

星(☆)本の題材を活用したクイズ形式の活動などを通してかさの多少を学ぶ

本題材に関連する学習指導要領の主な内容

3段階

C測定 ア

(ア)知識及び技能

- ⑦長さ、広さ、かさなどの量を直接比べる方法について理解し、比較すること。
- ⑧身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比較すること。

(イ)思考力、判断力、表現力等

- ⑦身の回りのものの長さ、広さ及びかさについて、その単位に着目して大小を比較したり、表現したりすること。

単元名

かさを比べよう

児童生徒の状況

- ・ 5年生10名を習熟度により2つのグループに分け、習熟度の高い方の5名で構成。
- ・ 児童らは前学年までに2つの量の大きさを、一方を基準にして相対的に比べる学習を履修している。また、本単元の前に「ながさを比べる」学習をしており、直接比較する際の「片方の端を揃える」、間接比較する際の「ながさは〇〇個分」や3量以上の比較では系列化(A>B>C)の考え方を理解している。

単元構想の視点と星(☆)本活用のポイント

- ・ かさを比較し、その多少を表現することができるよう、解説書の学習指導例を参考に、コップや水といった具体物を用いる。

単元の展開

- ・ 長さ、広さ、かさなどの量を直接比べる方法について理解する。
- ・ 身の回りのもののかさについて、多少を比較したり表現する。
- ・ 数量や図形の違いを理解し、算数で学んだことを学習や生活に活用しようとすることができる。

時数

学習活動と星(☆)本の活用

関連して使用した教材等

①

・ 「かさ」の言葉について。・ 一方の辺を揃える。・ 同じ容器を使用する。



・ モニター ・ スライド ・ タブレット端末 ・ 容器の形が違う市販の飲み物 ・ 形の違う容器 (ワイングラス、ジョッキなど) ・ メスシリンダー 2個 ※星本 p76上段のイラストを使用。

② (本時)

【本時】  
・ かさの見方  
・ 2つのかさの直接比較



・ モニター ・ スライド ・ タブレット端末  
・ 色水 ・ 透明コップ ・ 油性ペン  
※星本 p76上段のイラストを使用。

③

・ かさの見方  
・ 3つのかさの直接比較



・ モニター ・ スライド ・ タブレット端末  
・ 色水 ・ 透明コップ ・ 油性ペン ・ アプリ (小学1年生算数)  
※星本 p76中段のイラストを使用。

④

3つのかさの直接比較  
・ 市販の飲み物の間接比較  
※ペットボトルの中身をコップに移し替えコップ〇杯分で比較



・ モニター ・ スライド ・ タブレット端末  
・ 色水 ・ 透明コップ ・ 油性ペン ・ 市販の飲み物  
※星本 p76中段、下段のイラストを使用。

⑤

・ 水筒の中身の間接比較  
※教師が持参した複数の水筒を準備する。水筒の中身は予想が難しいため、どの水筒も全量入れた状態で準備する。



・ モニター ・ スライド ・ タブレット端末  
・ 透明コップ ・ 油性ペン ・ 形の違う水筒 3つ  
※星本 p76下段のイラストを使用。

⑥

・ 色々な入れ物の間接比較  
※家庭科室にある急須や鍋などの容器に液体の量をコップに移し替えコップ〇杯分で比較



・ モニター ・ スライド ・ タブレット端末  
・ 透明コップ ・ 油性ペン ・ 急須、やかん、鍋等  
※星本 p76下段のイラストを使用。

## 本時の展開

目標:かさの見方や量を比べる方法を理解し、  
2つの容器のかさを直接比較することができる



学習の流れ	主な学習活動	星(☆)本の使い方のポイント
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日の学習の確認</li> </ul>	
展開	<p>「かさをくらべましょう(☆☆☆)」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>かさの見方を知ろう           <ul style="list-style-type: none"> <li>スライドを使用して、かさの見方についての説明を行う。</li> </ul> </li> <li>かさを測ってみよう           <ul style="list-style-type: none"> <li>色水を準備し、コップに注いで児童の前に提示する。</li> <li>児童1人ずつ水面を見取り、水面の位置に線を引く。</li> </ul> </li> <li>かさを比べよう           <ul style="list-style-type: none"> <li>液体の入った二つの容器を直接比較する。</li> <li>かさの多少に関する問題を○×のクイズ形式で教員が提示し、正解の場合は正解音を出す。</li> <li>1人ずつ発表の場に移動し、自分が作成した線が引かれたコップを見て、かさの多少について発表を行う。</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>解説書の学習指導例を参考に、星(☆)本のイラストと同様に、絵具で着色した色水とコップを用意し、児童が具体の活動を通して、かさの多少を理解できるようにする。</li> </ul>
まとめ	<ol style="list-style-type: none"> <li>振り返り           <ul style="list-style-type: none"> <li>どちらが多い、少ないを発表することができる。</li> </ul> </li> <li>次時の確認</li> </ol>	



## 担当教員より

- 星(☆)本を使用することで、学習の現在位置を確認することができる。
- 星(☆)本を活用することにより、各段階の学習内容を履修することができ、またどこに注目すべきか言葉がけがしやすくなった。
- 星(☆)本の題材に沿った具体物を充実させ、授業で活用することで、児童の学習内容の理解につながっている。



# 東京都立あきる野学園

## 障害種・児童生徒数

肢体不自由教育部門：小学部19名(9学級)、中学部20名(6学級)、高等部5名(2学級)  
知的障害教育部門：小学部 116名(24学級)、中学部61名(12学級)、高等部 82名(13学級)

## 学校の特徴

肢体不自由教育部門と知的障害教育部門の併置校である。あきる野市、日の出町、檜原村が部門共通の通学区域となっている。「分かって楽しい★あきる野学園」を目標として、学校運営を行っている。

### 小学部

学年	国語	算数	音楽
第1学年	☆ <sup>①②</sup>	☆ <sup>①</sup>	☆ <sup>①</sup>
第2学年	☆ <sup>②</sup>		
第3学年			
第4学年	☆☆ <sup>②</sup>		
第5学年	☆☆☆ <sup>①</sup>	☆☆☆ <sup>①</sup>	☆☆☆ <sup>①</sup>
第6学年			

①肢体不自由教育部門(知的障害を併せ有する教育課程) ②知的障害教育部門

※授業の一部でも星(☆)本を活用している学年・教科に”☆”を示しており、全ての授業で星(☆)本を活用していることを示すものではない。

## 星(☆)本を活用している

### 学年・教科等



### 中学部

学年	国語	算数・数学	音楽
第1学年	☆☆☆☆ <sup>①②</sup>	☆☆☆☆ <sup>①②</sup>	
第2学年	☆☆☆☆☆ <sup>②</sup>	☆☆☆☆☆ <sup>②</sup>	☆☆☆☆☆ <sup>②</sup>
第3学年	☆☆☆☆ <sup>①※</sup> ☆☆☆☆ <sup>②</sup>	☆☆☆☆ <sup>①※</sup> ☆☆☆☆ <sup>②</sup>	

①肢体不自由教育部門(知的障害を併せ有する教育課程)②知的障害教育部門  
※下学年対応で☆☆☆☆を使用

## 学校としての星(☆)本の主な使い方

- 教科別の指導において、星(☆)本のある教科の授業では、星(☆)本を教科書として活用している。
- 単元の指導に当たり、星(☆)本の題材を参考にして、自作教材を作成している。



## 星(☆)本活用に関する工夫

- 星(☆)本と解説書を職員室に用意し、教員がいつでも手に取れるようにしている。
- 年間指導計画に、各単元で使用する星(☆)本を記載し、教員が代わっても各教科の指導のねらいや内容が継続されるようにしている。

## 星(☆)本を活用することによる効果

- 学校で作成している、学習指導要領に基づいた指導内容表や単元一覧表の内容に即した教科書があることで、各教科の系統性をもった授業を実施しやすくなっている。



活用事例 ⑦

学年 … 中学部1年

教科 … 数学

使用している星(☆)本



生徒に身近な事柄を扱う星(☆)本の表やグラフを用いて興味・関心を引き付ける

本題材に関連する学習指導要領の主な内容

I 段階

D データの活用

ア 身の回りにおける数量を簡単な表やグラフに表したり、読み取ったりすること。

(ア) 知識及び技能

⑦ 身の回りにおける数量を簡単な表やグラフに表したり、読み取ったりすること。

(イ) 思考力、判断力、表現力等

⑦ 身の回りの事象に関するデータを整理する観点に着目し、簡単な表やグラフを用いながら読み取ったり、考察したりすること。

単元名

表とグラフ

児童生徒の状況

- ・ 計算問題に苦手意識をもっている生徒が多く、個々の実態に合わせた教材プリントの準備や、興味・関心を惹きやすいテーマ設定にするなどの工夫が必要。

単元構想の視点と星(☆)本活用のポイント

- ・ 表やグラフに興味・関心をもてるよう、星(☆)本の題材の中でも、特に生徒の日常に身近な事柄を扱っている表やグラフを取り上げている。

単元の展開

- ・ 内容を整理して、表やグラフを作成する。
- ・ 自分で作成した表やグラフを用いて、情報を読み取る。
- ・ 読み取った情報を表現する。

時数

学習活動と星(☆)本の活用

関連して使用した教材等

①

- ・ いろいろなグラフについて知る。
- ・ 内容を整理して、表やグラフを読む。



・ ワークシート

② (本時)

- ・ 内容を整理して、表やグラフを作成する。
- ・ 表やグラフを用いて、情報を読み取り表現する。



・ 授業用スライド、ワークシート、さいころ

③

- ・ 内容を整理して、表やグラフを作成する。
- ・ 自分で作成した表やグラフを用いて、情報を読み取る。
- ・ 読み取った情報を表現する。



・ ワークシート

# 本時の展開

目標:内容を整理して表やグラフを作成し、  
情報を読み取ることができる



## 学習の流れ

## 主な学習活動

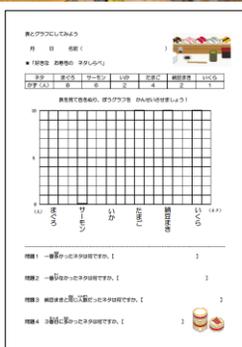
## 星(☆)本の使い方のポイント

### 導入

- 始まりの挨拶
- 個別学習

### 展開

- 「表とグラフ(☆☆☆☆)」
- 本時の学習内容、目標の確認
- 前回の振り返り
  - ・グラフにはどのようなものがあるか振り返る。
- さいころの出た目の回数調べ
  - ・さいころを10回振って、出た目の回数を表とグラフに表す。
  - ・どのような結果が出たか発表する。
- トマトの収穫個数、雑巾つくりの個数
  - ・グラフを見て、気付いたことについて発表する。
- 表とグラフの作成
  - 「好きなお寿司のネタ」
  - ・好きなネタの人数について、グラフに色を塗って作成する。
  - ・グラフを見て、気付いたことや思ったことについて発表する。
- 表とグラフのプリント学習
  - ・表とグラフを完成させる。
  - ・プリント教材を用意し、自分で問題を解き、終わったら報告をする。



- ・星(☆)本に掲載されている表やグラフのうち、生徒が特に興味・関心をもちやすいと思われる事柄を扱っている表やグラフを取り上げる。
- ・生徒が一人一冊星(☆)本を持っているので、実際にサイコロを振って出た目の回数を、生徒が星(☆)本に掲載されているグラフに直接書き込んでグラフを完成させる活動もしている。

### まとめ

- まとめ
  - ・本時の授業の振り返りをする。
- 次回の予定
  - ・次回の予定を知り、見通しをもつ。
- 終わりの挨拶

## 担当教員より

- 「表やグラフで表したり、読み取ったりする」という目標を達成するための指導の基本となる題材が示されているため、学習のとりかかりの際の題材として活用しやすく、また、新たな題材作成の参考となる。
- 学習指導要領の目標を踏まえ、指導すべき内容を明確にした指導がしやすくなった。



# 名古屋市立南特別支援学校

## 障害種・児童生徒数

知的障害部門:小学部73人(17学級) 中学部 60人(12学級) 高等部 325人(37学級)

## 学校の特徴

「一人一人がよさを伸ばし、たくましく生きる力を育てる」を教育目標に掲げ、グランドデザインの「ひとりひとりのきらり☆みんなと輝くきらり☆」を目指している。小・中・高等部のほか、訪問教育学級も設けている。

### 小学部

学年	国語	算数	音楽
第1学年	☆	☆	
第2学年	☆	☆	
第3学年	☆☆	☆☆	
第4学年	☆☆	☆☆	
第5学年	☆☆☆	☆☆☆	
第6学年	☆☆☆	☆☆☆	

### 星(☆)本を活用している

#### 学年・教科等



### 中学部

学年	国語	算数	音楽
第1学年	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆
第2学年	☆☆☆☆、 ☆☆☆☆☆	☆☆☆☆、 ☆☆☆☆☆	☆☆☆☆、 ☆☆☆☆☆
第3学年	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆	☆☆☆☆☆

※授業の一部でも星(☆)本を活用している学年・教科に”☆”を示しており、全ての授業で星(☆)本を活用していることを示すものではない。

### 学校としての星(☆)本の主な使い方

- 星(☆)本を基にした年間指導計画を作成し、児童生徒の実態も踏まえつつ、星(☆)本を使用する授業を基本としている。



### 星(☆)本活用に関する工夫

- 前年度までに使用した教材や児童生徒の学習の記録をデータで蓄積し、星(☆)本活用の参考としている。
- 児童生徒の理解につながるよう、星(☆)本に掲載されている題材について、タブレットで作成したオリジナルの教材や具体物を教材として用意している。

### 星(☆)本を活用することによる効果

- 星(☆)本を活用することで学習指導要領に基づいた指導をすることができ、授業の指導の流れを掴むことができる。
- 解説書を参考にすることで、授業づくりや年間指導計画の検討に生かすことができる。



## 活用事例 ⑧

学年 … 中学部2年

教科 … 数学

使用している星(☆)本

数学

星(☆)本の題材の具体物を活用して  
割り算の考え方の理解を深める本題材に関連する  
学習指導要領の  
主な内容

2段階

A数と計算 エ整数の除法

(ア)知識及び技能

- ⑦除法が用いられる場合や意味について理解すること。
- ⑧除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること。
- ⑨除法と乗法との関係について理解すること。

(イ)思考力、判断力、表現力等

- ⑦数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質や計算の仕方を見いだすとともに、日常生活に生かすこと。

## 単元名

割り算

児童生徒の  
状況

- ・「何個ずつ分ける」という活動において、具体物やタブレット端末を使用することで分けることができているが、計算という観点でみると、大半の生徒はかけ算との関係性を理解することが難しい。

単元構想の視点と  
星(☆)本活用の  
ポイント

- ・星(☆)本の題材を取り上げ、具体物を実際に分ける動作を通して、割り算の考え方の理解につながるようになっている。

## 単元の展開

- ・数量を同じ数ずつ分けられるかを考えて、割り算の式を作る。

時数	学習活動と星(☆)本の活用	関連して使用した教材等
① ②	「一人分はいくつ」 具体物とタブレット端末を用いた活動 星(☆)本 p52～54	・りんごの模型 ・皿 ・タブレット端末
③(本時)	★	
④ ⑤ ⑥	「何人に分けられる」 星(☆)本 p56	・九九表 ・タブレット端末
⑦ ⑧ ⑨	「□を使った考え方」 タブレット端末を用いた活動 星(☆)本 p57～59	・「一人分はいくつ」「何人に分けられる」のタブレット資料 ・タブレット端末
⑩ ⑪ ⑫	「あまりのある計算」 具体物とタブレット端末を用いた活動 星(☆)本 p60～62	・九九表 「一人分はいくつ」「何人に分けられる」のタブレット資料 ・タブレット端末

# 本時の展開

目標:りんごを同じ数ずつ分けて、  
割り算の式をつくろう



学習の流れ	主な学習活動	星(☆)本の使い方のポイント
<p><b>導入</b></p>	<p>・前時の振り返りと本時の学習内容を知る</p>	
<p><b>展開</b></p>	<p>「割り算(☆☆☆☆)」 ・決められた枚数の皿にりんごを同じ数ずつ置く活動を行う。</p> <p>●手順 (1) 分ける前のりんごの数を数える (2) 割り算の式の空欄にりんごの数をカードで表す。 (3) 指定された枚数のお皿を置く。 (4) 割り算の式の空欄に皿の数をカードで表す。 (5) 皿に同じ数ずつりんごを分ける。 (6) 一皿分のりんごの数を数え、商をカードで表す。</p> <p>・1人1台端末で学習用アプリを用い、個々で割り算の式を表す活動を行う。 ・割り算の式を表現する際は、数字カードを置いた後に声やジェスチャーで表現するようにする。</p>	<p>・学ぶ内容に注目できるよう、星(☆)本の内容をモニターに映しながら授業を進める。 ・星(☆)本で示している割り算の計算式の理解につながるよう、りんごの模型や皿を準備し、具体物を動かすことで数量の感覚を養っている。</p>
<p><b>まとめ</b></p>	<p>・本時の学習を振り返る。 ・あいさつをする。</p>	



## 担当教員より

- 星(☆)本の活用以前は、生徒の「苦手」なことの克服のための授業づくりをしていたが、学習指導要領に基づいた様々な内容を扱うことで、生徒の「得意」なことが分かるようになった。
- 星(☆)本の活用により、生徒は新しいことを学べる楽しさを得ることができ、教員も生徒の新たな一面に気付くことができ、生徒と教員の双方に効果を実感している。



# 東京都立小平特別支援学校

## 障害種・児童生徒数

肢体不自由教育部門：小学部 73人(24学級) 中学部 40人(13学級) 高等部 52人(14学級)  
 病弱教育部門：17人(15～20人程度の間で推移)

## 学校の特徴

肢体不自由と病弱の併置校であり、様々なところでそれぞれの専門性を生かし、連携して教育活動を行っています。

### 小学部

学年	国語	算数	音楽
第1学年	☆、☆☆、☆☆☆	☆、☆☆、☆☆☆	☆、☆☆、☆☆☆
第2学年	☆、☆☆、☆☆☆	☆、☆☆、☆☆☆	☆、☆☆、☆☆☆
第3学年	☆、☆☆、☆☆☆	☆、☆☆、☆☆☆	☆、☆☆、☆☆☆
第4学年	☆、☆☆、☆☆☆	☆、☆☆、☆☆☆	☆、☆☆、☆☆☆
第5学年	☆、☆☆、☆☆☆	☆、☆☆、☆☆☆	☆、☆☆、☆☆☆
第6学年	☆、☆☆、☆☆☆	☆、☆☆、☆☆☆	☆、☆☆、☆☆☆

## 星(☆)本を活用している

### 学年・教科等



### 中学部

学年	国語	数学(算数)	音楽
第1学年	☆～ ☆☆☆☆☆	☆～ ☆☆☆☆☆	☆～ ☆☆☆☆☆
第2学年	☆～ ☆☆☆☆☆	☆～ ☆☆☆☆☆	☆～ ☆☆☆☆☆
第3学年	☆～ ☆☆☆☆☆	☆～ ☆☆☆☆☆	☆～ ☆☆☆☆☆

※授業の一部でも星(☆)本を活用している学年・教科に”☆”を示しており、全ての授業で星(☆)本を活用していることを示すものではない。

## 学校としての星(☆)本の主な使い方

- 年間指導計画や単元計画の作成の際に、星(☆)本の内容や題材を参考にしている。
- 解説書から学習の段階や系統性を確認し、日ごろの授業づくりや指導に生かしている。



## 星(☆)本活用に関する工夫

- 国語、算数・数学、音楽の星(☆)本と解説書を、知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替えた教育課程と、自立活動を主とした教育課程のグループそれぞれに1セットずつ用意し、教員がいつでも手に取れるようにしている。



## 星(☆)本を活用することによる効果

- 学びの系統性や発展性を考えた授業づくりが教員の中で浸透し、学習指導要領を意識した授業づくりがなされるようになってきている。
- 星(☆)本を参考にすることで目標を焦点化して、目標を達成する学習活動への意識の転換が図られてきている。
- 目標が焦点化されることで、単元で学ぶべきことが明確化され、指導と評価が一体化されてきている。



活用事例 ⑨

学年 … 小学部1～3年

教科 … 音楽

使用している星(☆)本



# 星(☆)本の題材を活用して身体を動かしながら音階への意識を育む

## 本題材に関連する学習指導要領の主な内容

2段階

A表現 エ身体表現

(ア) 思考力、判断力、表現力等  
身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、簡単なリズム特徴を感じ取り、体を動かすことについて思いをもつこと。

(イ) 知識

⑦ 拍や曲の特徴的なリズムに気付くこと。

⑧ 曲名や動きとの関わりに気付くこと。

(ウ) 技能

⑦ 示範を見て模倣したり、拍や特徴的なリズムを意識したりして手足や身体全体を動かす技能を身に付けること。

## 単元名

どれみとなかよくなるう

## 児童生徒の状況

- 1学期は、3拍子や2拍子の曲に合わせて、タイミングよく打楽器を演奏することをねらい、主に「リズム」と「拍」について学習した。2学期は、文化祭の発表に向けて、鍵盤楽器も取り入れ、「音階」の基礎的な力となる「音名」と「音の高さ」についての学習した。これを踏まえて、本単元では、「リズム」と「音階」を取り扱う。

## 単元構想の視点と星(☆)本活用のポイント

- 音階を意識すること、音楽活動を楽しむ気持ちをもつことをねらいとして、星(☆)本から題材を選択している。
- 異学年集団だが、特に1年生は学びに向かう姿勢を身に付け、学習に向かう基礎を身に付ける段階であることから、☆1の題材も使用している。

## 単元の展開

- これまでの学びの履歴を踏まえて、「ドレミのうた」「かもつれっしゃ」という二つの異なる活動において音階を意識していく。

時数	学習活動と星(☆)本の活用	関連して使用した教材等
①		
②		
③		
④ (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽に合わせて、足元から自分の体に触れることで音階の高低を表現しながら歌う。⇒歌唱「ドレミのうた」(☆2)</li> <li>【しゅっしゅっしゅ】のリズムに合わせて、一音ずつ音階をあげながら演奏する。⇒器楽「かもつれっしゃ」(☆2)</li> </ul>	モニター、ミニキーボード、ベルハーモニー、楽譜、PC
⑤		
⑥		
⑦		
⑧	全8時間同じ流れを繰り返し、学習を深めていった。	



## 本時の展開

目標:体を動かして音楽活動を楽しみながら  
音階を意識する



学習の流れ	主な学習活動	星(☆)本の使い方のポイント
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○はじまりのあいさつ</li> <li>○今日の予定確認</li> </ul>	
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○うた(歌唱)               <ul style="list-style-type: none"> <li>「パレード(☆☆☆)」</li> <li>・「ぱ・ぱ・ぱ・ぱ」や「ど・ど・ど・ど」で発声する。</li> <li>「ドレミのうた(☆☆)」</li> <li>・音階の高低を足元から順番に自分の体に触れて表現しながら歌う。</li> </ul> </li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ダンス(身体表現)               <ul style="list-style-type: none"> <li>「ふりふりダンス(☆)」</li> <li>かんがえよう</li> <li>・自分が振りたい身体の部分を考えて順番に発表し、音楽に合わせてみんなで同じ身体の部分を振る。</li> </ul> </li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○がっき(器楽)               <ul style="list-style-type: none"> <li>「かもつれっしゃ(☆☆)」</li> <li>・3~4人ずつ前に出て順番にキーボード、ベルハーモニーを演奏する。</li> <li>【しゅっしゅっしゅ】の部分で、キーボードもしくはベルハーモニーを演奏し、【がっちゃん】の部分で次の児童にハイタッチする。</li> </ul> </li> </ul>	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○鑑賞               <ul style="list-style-type: none"> <li>世界のダンス「フラダンス」</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・星(☆)本の題材は、シンプルな楽曲の中でねらいが焦点化されており、解説書を確認した上で、「このダンスのときには決めたところを振る」「しゅっしゅっしゅ」のところを意識して演奏するなど、指導のポイントを意識して言葉かけなどを行う。</li> </ul>

## 担当教員より

- 世間には様々な楽曲が存在しているが、星(☆)本があることで、学習指導要領の目標や内容を意識しながら、楽曲を選びやすくなった。
- 介護に当たる学校介護職員も、指導のポイントが明確化されたことで、子供たちに言葉かけをしやすくなった。



## 障害種・児童生徒数

幼稚部5名(2学級)、小学部24名(3学級)、中学部17名(3学級)、高等部21名(3学級)

## 学校の特徴

知的障害を対象とした特別支援学校。他の附属学校と連携しながら、知的障害教育に求められる研究を行い、その成果を発信している。

### 小学部

学年	国語	算数	音楽
第1学年	☆	☆	☆、☆☆、☆☆☆
第2学年	☆	☆	☆、☆☆、☆☆☆
第3学年	☆、☆☆	☆、☆☆	☆、☆☆、☆☆☆
第4学年	☆、☆☆	☆、☆☆	☆、☆☆、☆☆☆
第5学年	☆、☆☆、☆☆☆	☆、☆☆、☆☆☆	☆、☆☆、☆☆☆
第6学年	☆、☆☆、☆☆☆	☆、☆☆、☆☆☆	☆、☆☆、☆☆☆

### 星(☆)本を活用している

#### 学年・教科等



### 中学部

学年	国語	数学(算数)	音楽
第1学年	☆☆☆☆		
第2学年	☆☆☆☆		
第3学年	☆☆☆☆		

※授業の一部でも星(☆)本を活用している学年・教科に”☆”を示しており、全ての授業で星(☆)本を活用していることを示すものではない。

### 学校としての星(☆)本の主な使い方

- 取り扱っている各教科の内容について、各教科の特質を踏まえた指導を行うことができるよう、解説書で題材のねらい等を確認した上で、星(☆)本の題材を授業に取り入れている。



### 星(☆)本活用に関する工夫

- 国語、算数、音楽の星(☆)本と解説書を各学級に1冊ずつ用意し、星(☆)本の各題材における指導のねらい等を担任がいつでも確認できるようにしている。



### 星(☆)本を活用することによる効果

- 星(☆)本や解説書は、授業で取り扱う単元の目標や、指導の際に重視すべきポイントの手掛かりとなり、学習指導要領を踏まえた授業づくりがしやすくなっている。
- 児童の実態等に応じて、星(☆)本とは別の類似の題材に置き換えた場合であっても、解説書で示されている指導のねらいや指導方法等を踏まえた実践ができるようになっている。



活用事例 ⑩

学年 … 小学部3・4年

教科 … 音楽

使用している星(☆)本



# 星(☆)本の題材を活用して音楽に合わせた自分なりの身体表現を引き出す

## 本題材に関連する学習指導要領の主な内容

3段階 A表現  
ア 歌唱

(ア) 思考力、判断力、表現力等  
歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現に対する思いをもつこと。

(イ) 知識

① 曲名や歌詞に使われている言葉から受けるイメージと曲の雰囲気との関わりに気付くこと。

(ウ) 技能

⑦ 範唱を聴いて歌ったり、歌詞やリズムを意識して歌ったりする技能を身に付けること。

## 単元名

自分なりの表現をしよう

## 児童生徒の状況

- ・ 音楽科では、学習指導要領における2段階、もしくは3段階を扱うことができる状況。
- ・ 授業の見通しがもてるようになると、気分がのってきて興味・関心を示すようになるため、題材を繰り返し扱うことが重要。

## 単元構想の視点と星(☆)本活用のポイント

- ・ 児童の興味・関心や、季節との関連を踏まえて、星(☆)本から題材を選択している。
- ・ 生活科で「かぜ」をテーマにした単元を扱っていることから、教科横断的な視点で、星(☆)本から「かぜ」に関連した楽曲を選択している。

## 単元の展開

- ・ 声を出して歌ったり、リズムに合わせて楽器を叩いたり、音楽を聞きながら身体表現をしたり、友達と一緒に活動したりする。

## 時数

## 学習活動と星(☆)本の活用

## 関連して使用した教材等

①  
②

「自分なりの表現をしよう」※月ごとに扱う題材を変えている  
・ 「発声の歌」：「犬のおなか」の曲に合わせて、「ハッハハハハー」とお腹の底から声を出す。

・ 「季節・行事の歌」：映像や歌詞を見ながら、歌詞を声に出したり、部分的に歌ったり、動作で表現したりする。「きたかぜ小ぞうのかんたろう」「たこのうた」「まめまき」「うれしいひなまつり」「卒業・修了の歌」「ももたろう」「校歌」「国歌」等

・ 「伝承遊び」：日本の伝承遊びや童歌遊びをする。「かごめかごめ」「とおりゃんせ」「はないちもんめ」等

・ 「合奏しよう」：担当する楽器やパートを分けて、音楽をよく聞いて合奏する。「バンバン」「やまのおんがくか」等

・ 「リトミック」：ピアノ伴奏に合わせて、「歩く」「チョウチョウ」「トンボ」「お馬」「スキップ」等の動きをする。

・ 「鑑賞」：日本の様々な楽器（尺八、琴、三味線等）で演奏された映像を視聴して、その音の違いを感じ、使われている楽器の名称を知る。

- ・ 寒太郎の笠、楽器（マラカス、鈴、タンバリン、ロリポップドラム）、スライド、花丸ポイントカード

## ③(本時)

④  
⑤  
⑥  
⑦  
⑧  
⑨



## 本時の展開

目標: 声を出して歌ったり、リズムに合わせて楽器を叩いたり、音楽を聞きながら身体表現をする



学習の流れ	主な学習活動	星(☆)本の使い方のポイント
導入	1. はじめのあいさつをする。 2. 今日の「めあて」と「よてい」を知る。	
展開	3. はっせいの歌「犬のおなか」 4. 歌唱 「きたかぜこぞうのかんたろう (☆☆☆)」 ・冬に吹く冷たい北風をイメージできるように、「ヒューン」「ヒュルルン」等の歌詞を強調して歌ったり、笠を被ってリズムよく歩いたりしながら楽しく歌えるようにする。 5. 身体表現「手遊び」 ①「でんでらりゆうば」 6. 身体表現「手遊び」 ②「あかたすうんどうんち(☆☆)」 ・教員が動きのモデルを示したり、言葉かけをしたりして表現を促す。 7. 器楽「合奏」 「やまのおんがくか(☆☆)」 ・児童が楽器を選択し、音楽のリズムに合わせて音を出す。 ・モデルとなるペアに発表してもらう。 8. 身体表現「わらべうたあそび」 「はないちもんめ」 9. 鑑賞「日本の古典」「はるのうみ」	・解説書を踏まえて、全員で少しずつ反復唱をしたり、歌詞の中の擬音語を強調したりするなどして、児童が積極的に授業に参加できるようにする。 ・解説書を踏まえて、映像教材を別途用意し、楽曲の風景や雰囲気を見覚えるようにする。
まとめ	10. 楽しかった活動を発表する。 11. おわりのあいさつ	



## 担当教員より

- 解説書を活用することで、星(☆)本に掲載されている楽曲を扱う際の指導のポイントが明確化され、児童の資質・能力の育成を意識した授業づくりにつながっている。
- 指導のポイントが明確化されることで、児童の楽曲に対する興味・関心の高まりにつながり、授業以外の学校生活や家庭の中でも楽曲を歌うなどの様子が見られるようになった。

## 障害種・児童生徒数

合計157名(小学部69名(17学級)、中学部34名(9学級)、高等部53名(11学級)、訪問教育1名)

## 学校の特徴

「明るく、仲よく、元気よく」を教育目標とし、知的障害と肢体不自由の児童生徒を対象として教育を行っている。近隣の学校や地域との交流活動も盛んで、特別支援教育のセンター校としての役割も担う。

### 小学部

学年	国語	算数	音楽
第1学年	☆	☆	☆
第2学年		☆	☆
第3学年	☆☆	☆☆	☆☆
第4学年	☆	☆☆	☆☆
第5学年	☆☆☆	☆☆☆	☆☆☆
第6学年		☆☆☆	☆☆☆

### 星(☆)本を活用している

#### 学年・教科等



### 中学部

学年	国語	数学(算数)	音楽
第1学年	☆☆	☆☆、☆☆☆☆	☆☆☆☆
第2学年	☆☆、☆☆☆、 ☆☆☆☆☆		☆☆☆☆☆
第3学年	☆☆☆、 ☆☆☆☆☆	☆☆☆、 ☆☆☆☆☆	☆☆☆☆、 ☆☆☆☆☆

※授業の一部でも星(☆)本を活用している学年・教科に”☆”を示しており、全ての授業で星(☆)本を活用していることを示すものではない。

### 学校としての星(☆)本の主な使い方

- 星(☆)本の題材を基にして、年間指導計画を作成し、児童生徒の実態に応じて、星(☆)本を授業内で使用している。



### 星(☆)本活用に関する工夫

- 星(☆)本の内容の理解を深められるよう、タブレット端末等のICT機器や、教員が独自に作成するデジタル教材を星(☆)本と併用している。
- 解説書を職員室に用意し、教員がいつでも手に取れるようにしている。



### 星(☆)本を活用することによる効果

- 星(☆)本や解説書を使用することで、学習指導要領に基づいた授業づくりができるようになってきている。
- 星(☆)本の題材をもとに授業を行い、そこから学習を展開していくことで、ねらいを明確にした授業を行うことができている。



活用事例 ⑪

学年 … 中学部3年

教科 … 音楽

使用している星(☆)本



星(☆)本の題材に関連する教材を用意し、楽曲のイメージを広げながら曲調やリズムなどを捉える力を育む

本題材に関連する  
学習指導要領の  
主な内容

2段階

B鑑賞 ア鑑賞

(ア) 思考力、判断力、表現力等  
鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏の良さなどを見だし、曲全体を味わって聴くこと。

(イ) 知識  
曲想と音楽の構造等との関わりについて理解すること。

単元名

鑑賞 バレエ「くるみ割り人形」

児童生徒の  
状況

- 途中で集中力が途切れやすい生徒もいるが、みな音楽が大好きで、リズム感もあり、身体を動かす内容を特に楽しんでいる。

単元構想の視点と  
星(☆)本活用の  
ポイント

- 楽曲に関連する知識や楽曲のイメージを広げられるよう、学習指導要領の目標や内容を踏まえ、星(☆)本の題材と関連する教材を用意している。
- 教員作成のデジタル教材を活用して題材に関する理解を促した後、星(☆)本を使用して内容の理解を深めるようにしている。

単元の展開

- バレエの踊りや物語の場面を見たりしながら、曲調やテンポの違いを感じ、演奏中に出てくる楽器の名前や音色を知る。曲に合わせて3拍子・4拍子のリズムの指揮を振る。

時数	学習活動と星(☆)本の活用	関連して使用した教材等
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語について知ろう</li> <li>登場人物の確認</li> <li>物語の鑑賞 (YouTube動画にて)</li> <li>物語クイズ</li> </ul>	★
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>曲について知ろう①</li> <li>曲を鑑賞しよう</li> <li>曲鑑賞 (トレパーク、花のワルツ)</li> <li>→曲の特徴について</li> <li>→楽器の名称や特徴について</li> </ul>	★
③ (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>作曲者について知ろう</li> <li>→名前、出身国などについて</li> <li>曲について知ろう②</li> <li>曲名とバレエの踊りの一致クイズ</li> <li>指揮を振ってみよう</li> <li>3拍子と4拍子について</li> </ul>	★

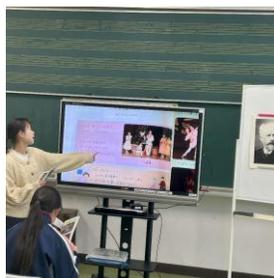
- テレビ
- セットトップボックス
- プリント
- オルガン
- 肖像画 (チャイコフスキー)
- 世界地図
- 指揮棒

## 本時の展開

目標:物語を聞いたり、場面絵を見たりしながら  
曲を聴き、曲調やテンポの違いを感じる



学習の流れ	主な学習活動	星(☆)本の使い方のポイント
導入	<p>○あいさつ、本時の流れの確認</p>	
展開	<p>○前時の復習 「くるみ割り人形(☆☆☆☆☆)」 ・教科書を読んで物語の流れを確認する。 ・トレパーク、花のワルツの曲の特徴について知る。</p> <p>○作曲者について知ろう ・チャイコフスキーについて知る。 ・名前 ・出身国 ・代表的な曲</p> <p>○曲について知ろう② ・曲のタイトルとバレエの踊りについて知る。 ・トレパーク(ロシアの踊り) ・中国の踊り ・アラビアの踊り</p> <p>○指揮を振ってみよう ・教師の示範を見て、曲に合わせて3拍子・4拍子を振る。</p>	<p>・生徒の関心を惹きつけられるよう、星(☆)本の内容をモニターに映しておく。</p> <p>・星(☆)本の題材から生徒の世界を広げられるよう、楽曲だけでなく、関連する世界地図や文化などの教材を併せて使用する。</p>
まとめ	<p>○あいさつ、片づけ</p>	



## 担当教員より

- 星(☆)本に記載されている「くるみ割り人形」をわかりやすくするため、ストーリーを絵で表したデジタル教材を作成した。ストーリーをある程度把握したところで星(☆)本を読んで、理解を深めることができた。
- 星(☆)本に掲載されている世界の曲を学ぶ際には、関連する他の知識と結び付けて、イメージを膨らませることで、他の授業でも音楽で覚えた国の名前を思い出して話したり、曲の印象が深まって、音楽をより楽しむことができたりしている。







文部科学省